［遺族］　河津 直樹 氏(平成 20 年(当時 10 歳)、父を交通事故で失う)

［要旨］

〇当時の状況

小学校４年生(当時 10 歳)の時、学校で２分の１成人式が終わった数時間後に、父親を交通事故で亡くしました。バイクで走行中、トラックのタイヤに巻き込まれた事故でした。

当時の私はまだ幼く、母親から「お父さんが交通事故にあった」と聞いた時は、何が何だか分かりませんでした。病院で父親と再会し、言葉を交わすのだろうと思っていました。しかし、その日以降、二度と父親と話すことはできなくなってしまいました。

父親の葬儀も終わり、１週間くらい経って学校に行きました。クラスメートは葬儀に来てくれていたので、私の父親が交通事故で亡くなったのは知っていました。

正直、学校に行くのは嫌でした。なぜかというと、父親のことで何か聞かれるのではないかと思ったのです。しかし友人達からはいろいろ言われず、普段通りに接してくれたのが、当時はとてもうれしく感じました。

〇母、そして周りの人達への感謝

中学校に入り、事故のことや、自分が片親であることは知らない人も多くなりました。友人達としゃべっている時に父親の話になると、私はそれまで普通にしゃべっていても、一歩身を引いてしまいます。しかし、「お父さんは何をしているの？」と聞かれると、答えるしかありませんでした。「航空管制技術官だったよ」と言うと、「じゃあ今は？」と言われ、はぐらかすしかありませんでした。「父親は亡くなった」とは言いたくなかったからです。同情されたくなかったし、父親のことを話すと、父との思い出がこみ上げてきて涙が溢れそうになるからです。

父親がいなくて悲しかった時はありますが、苦労したことはほとんどありませんでした。それは、母が女手ひとつで私を育ててくれたからです。母はそれまで専業主婦でしたが、パートを始めてくれました。そのおかげもあって、私は苦労せずに部活をやることができ、塾にも通わせてもらいました。

また、周りの人達のおかげでもあります。学校の先生は、あまりお金のかからない学校を調べてくれました。交通遺児育英会のおかげで寮に入ることができ、東京の大学に通うことができました。

〇同じ境遇の人との出会い

交通遺児育英会の寮に入ったおかげで、同じ境遇の人達と接することもでき、それまで父親のことを自分から話すことは一度もなかったのですが、少し話すことができ、心が軽くなった気持ちになりました。本当に寮に入って良かったと思った瞬間でした。

普段の生活では、身近に父親を亡くした人はほとんどいませんでした。そのため、なんで自分だけ父親が

いないのだろうと思ってしまいます。同じ境遇の人と話すことで、「あなただけじゃないよ」と気持ちが楽になります。小・中学生時代に、このような機会があれば良かったのにと心から思います。

父親が亡くなって 13 年。当時は小学４年生でしたが、今は大学４年生。来年には社会人です。ここまで大きくなったのも母のおかげです。今まで苦労かけた分、たくさん親孝行して、「ありがとう」と伝えたいです。私の父親にも、「ここまで大きくなったよ」と言いたいです。